

架け橋



JICA 海外協力隊 2021 年 1 次隊

ナミビア 小学校教育

ウサコス エロンゴサ小学校

川畑 舞



第 16 「4 年算数実践（時間）」号

（2022 年 10 月発行）

4 年算数「時間」の学習

今回は、4 年算数の単元「時間」の授業実践についてお伝えします。

















4 年生の児童の実態（様子）より、この単元で子供たちにとって大切なことは「時間の長さの感覚をつかむこと」「時計（アナログ・デジタル）の時間を読むようになること」です。なぜなら、学校の教室に掲示されている時計は全て電池が切れて止まっていたり、元より子供たちには時間を見て生活をするという習慣がなかったりするからです。学校では授業と授業の合間に鳴るベルの音を聞いて行動しています。また、学習内容において、例えば「短針が 4、長針が 9」を指している場合、日本では「4 時 45 分」と読みます。しかし、ナミビア共和国の算数では「5 時の 15 分前」という読み方を学習します。この読み方にほとんどの児童がつまづきます。

そこで、次のように指導しました。ステップ 1「長針のみを読む」、ステップ 2「長針と固定された短針を読む」、ステップ 3「ランダム of 時間を読む」という流れでフラッシュカードを作成し、初めにアナログ時計を読む練習を繰り返しました。（各ステップとフラッシュカード例 次ページ参照）

その後、ステップ 4・5 で「デジタル時計を読む」学習に取り組みました。最初、子供たちは、デジタル時計の「11:50」をなぜ「12 時 10 分前」と読むのか全く分からない様子でしたが、アナログ時計を使って説明をすることできちんと理解をすることができました。そして、徐々に頭の中でアナログ時計とデジタル時計が結び付いてきて、最終的にアナログ時計がなくてもデジタル時計の時間を読むようになりました。

このように、児童のつまづくポイントを理解し、子供たちがつまづかないようにステップ（一段ずつの階段）を築いてあげることがとても大切だと感じました。これらの実践を通して効果的だった教材や指導方法は、現地の先生に共有していきます。

〈各ステップとフラッシュカード例〉

ステップ 1 「長針のみを読む」			
5 分過ぎ	5 分前	10 分過ぎ	10 分前
			
ステップ 2 「長針と固定された短針を読む」			
5 時 5 分過ぎ	6 時 5 分前	5 時 10 分過ぎ	6 時 10 分前
			
ステップ 3 「ランダム of 時間を読む」			
5 時 5 分過ぎ	8 時 5 分前	1 時 10 分過ぎ	12 時 10 分前
			
ステップ 4 「アナログ時計とデジタル時計を結び付ける」			
5 時 5 分過ぎ	8 時 5 分前	1 時 10 分過ぎ	12 時 10 分前
05:05	07:55	01:10	11:50
			
ステップ 5 「デジタル時計を読む」			
5 時 5 分過ぎ	8 時 5 分前	1 時 10 分過ぎ	12 時 10 分前
05:05	07:55	01:10	11:50